「広報写真のポイント」で機材の事前確認をお願いします。

2023･2・3　市町村アカデミー　②

□広報写真セミナーに参加の皆様へ□

以下の項目を事前に移動変更できるように確認してください。

使用説明書は専門用語が多く撮影に慣れないと設定が難しいと思います。広報課の先輩に聞きながら「測光モード」「フォーカスモード」「露出モード」の三種類の設定場所を確認してください。

※測光モード

総称	ニコン系	キヤノン
「多分割測光」	マルチパターン測光	評価測光
「中央部測光」	中央部重点測光	部分測光
「スポット測光」	スポット測光	スポット測光

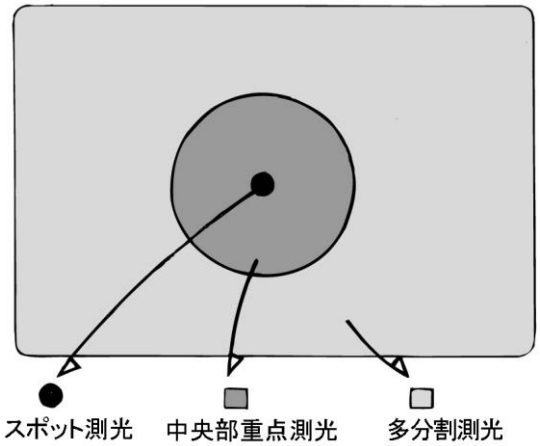
機能説明

適正露出を測光する測光モードは、被写体に当たる光の方向で切り替えます。
広報写真は、「多分割測光」と「中央部測光」の２種類を使用します。
「多分割測光」は、ファインダー全体の平均値を測光して適正露出にします。
「中央部測光」は、ファインダー内の８％を測光して適正露出にします。
「スポット測光」は、ファインダー内の 2～3%を測光して適正露出にします。

設定場所

メーカーにより名称が異なります。
多分割測光（総称）は、マルチパターン測光（ニコン系）、評価測光（キヤノン系）、マルチ測光（ソニー）、分割測光（ペンタックス）、ESP 測光（オリンパス）」と呼びます。
中央部測光（総称）は、中央部重点測光（ニコン・ペンタックス・パナソニック・）、部分測光（キヤノン）中央部重点平均測光（ソニー・オリンパス）と呼びます。
両方の設定ができるように確認してください。この実習では多分割測光を使用します。

図-1　ファインダー内の測光範囲



□測光モードの設定

※露出補正の設定と表示

反射率の高い「白色」は「＋」補正を反対に暗い色は「ー」補正をします。

※露出モード

■露出モード	ニコン系	キヤノン系
プログラムオート	（P）	（P）
絞り優先オート	（A）	（Av）
シャッター優先オート	（S）	（Tv）
マニュアル露出	（M）	（M）

機能説明

この講義では、優先オートを使って行います。動きの少ないスナップ撮影は、
絞り優先オートに、スポーツのように動きのある被写体はシャッター優先オートにします。

設定場所

ボディー上にある露出モードの切り替えダイヤルで、また、「MODE」（ニコン）ボタンでの変更は、MODEボタンを押してコマンドダイヤル（ニコン）電子ダイヤル（キヤノン）を回転して変更します

□絞り値の変更と設定

露出モードを絞り値優先オート「A」（ニコン系）「Av」（キヤノン・ペンタックス）にすると絞り値が変更できます。サブコマンドダイヤル（ニコン系）やサブ電子ダイヤル（キヤノン）で、絞り値を「F11」と「F5.6」に変更できるように確認してください。

□シャッタースピードの変更と設定

露出モードをシャッター優先オート「S」（ニコン系）「Tv」（キヤノン・ペンタックス）にするとシャッタースピードが変更できます。メインコマンドダイヤル（ニコン系）やメイン電子ダイヤル（キヤノン系）で、シャッタースピードを「1/30 秒」と「1/250 秒」に変更できるように確認してください。

露出モードダイヤルを回転して設定します。

ニコン：露出モードダイヤルかMOODボタンを押してコマンドダイヤルで変更します。

※オートフォーカスモード　（AF）

	ニコン系	キヤノン系
□フォーカスモードの設定		
シングルオートフォーカス	AF－S	OEN SHOT
コンティニュアスオートフォーカス	AF－C	AI SERVO

機能説明　被写体の動きによってピントの合わせ方を変更する機能です。

＊シングルオートフォーカスの「AF-S」(ニコン他)「ONE SHOT」(キヤノンのみ）は、動きの少ないスナップ撮影に適したオートフォーカスモードです。ピントが合うとピントが固定されるフォーカスロック機能があります。露出モードの絞り優先オート「A」「Av」と組み合わせます。

＊コンティニュアスオートフォーカスの「AF-C」(ニコン系)「AI SERVO」(キヤノンのみの名称）は、動きのある被写体に適したフォーカスモードで、シャッターを押すまでピントを合わせ続けて、フォーカスロックされません。露出モードをシャッター優先オート「S」「Tv」と組み合わせます。

「キヤノン」　　「ニコン」

※エリアオートフォーカスモードの設定

ファインダーの中には、ピントを合わす幾つものフォーカスフレームがありますが、「ＡＦフレームの選択」（キヤノン）、「ＡＦエリアモード」（ニコン）によって、1点と複数のフレームでピントを合わす設定ができます。

スナップ撮影はシャープなピントを得るために、1点でピントを合わすシングルエリアＡＦモード「[ ]」（ニコン）・1点ＡＦ「□」（キヤノン）に設定します。この場合、フォーカスモードをシングルAFの「AF-S」(ニコン)「ONE SHOT」(キヤノン)にします。

複数のフォーカスフレームを使うエリアＡＦモードには、スポーツのように速い上に不規則な動きをする被写体に適した、ダイナミックAF・9点「[ ]」（ニコン領域拡大AF「[ ]」4点、「[ ]」9点（キヤノン）があります。

使い方は、シングルエリアＡＦのようにフォーカスフレームの1点を選びますが、一時的に被写体がフォーカスフレームから外れても、上下左右のフォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。フォーカスモードはコンティニュアンス AF の「AF-C」(ニコン)「AI SERVO」(キヤノン)に設定します。

□エリアフォーカスモードの設定

（ニコン）

＊フォーカスモード
シングルポイントAFモード

ダイナミックAFモード
9点・25点・72点153点

オートエリアAFモード

3D-トラッキング(11点)

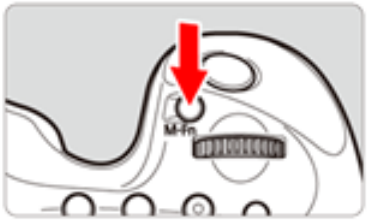
手順

【i】ボタンを押します。

02. マルチセレクターで[AFエリアモード]を選んでOKボタンを押します。

03. 設定したいAFエリアモードを選びます。
OKボタンを押して設定します。

（キヤノン）



ファインダーをのぞきながら
［ M-Fn ］ボタンを押します。
ボタンを押すたびに測距エリア選択モードが切り換わります。

［ ］ボタンを押すとファインダー内のフレームは赤く表示されます。
カメラの液晶画面には
［ AFフレーム選択 ］
画面が表示されます。

①AFシングルオートフォーカスモード

②一時的にフォーカスフレームから被写体が外れても上下左右のフォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。

③1点でピントを合わせますが、一時的にフォーカスフレームから被写体が外れても、上下左右フォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。

④ゾーンAF９の範囲に分けてピントをあわせます。

⑤ 61点全体を自動選択

□その他の設定

※ISO感度の設定と変更

ストロボの天井バウンスが最初の撮影実習になります。「ISO400」に設定してください。

ISOボタンを押してンコマンドダイヤル(ニコン)・電子ダイヤル(キヤノン)で設定します。

※「画像モードと画質モード」

画質モードは画像を保存するファイル形式で、画像の圧縮率を決めるものです。
画像サイズは、記録する画像の大きさを決めるものです。
最終媒体が印刷では、「JPEG」で画質モードを「FINE」(ニコン)「 ◢L 」(キヤノン)に、画像サイズは繊細な画像を作るように「 L 」にします。

※「作動モードの設定」

シャッターチャンスを逃さないように連続撮影「 ❑ 」あるいは「 CH 」(ニコン)に設定します。

※視度調整の設定

視度調整機能は、ファインダー内で画像を鮮明に見えるようにしてから、ファインダー近くにあるダイヤルを回転すると、近視から遠視まで目にあった視力に設定することができます。

※ストロボについての注意点

撮影実習で少数ですがストロボが発光しないケースがあります。
広報課で下記の手順で人物をテスト撮影してください。
ストロボの発光モードは、「A」「M」「TTL」があります。ストロボ設定は、「TTL」(一般的)「i-TTL」(ニコン)、「e-TTL」(キヤノン)に設定してください。
ストロボをカメラに取り付けてカメラの設定は、ISO 感度 400 に、露出モードを絞り優先オート「A」「Av」にして絞り値を「F8」にします。人物から２m離れてストロボの発行部を被写体に向けて、ウエストアップで撮影します。画像が真っ白や暗くなるようでしたら、ストロボをカメラから取り外してもう一度しっかりと取り付けて撮影してください。それでも変わりがない場合は他のストロボでテスト撮影してください。それでもだめなら当日に確認します。

□撮影実習の機材について

※カメラとレンズ
日頃使用しているカメラをお持ち下さい。
レンズは18～70㎜以上200㎜がベストです。標準ズーム24･28～70㎜でもいいです。
18～55㎜と70～200㎜以上の２本を使用している場合は、２本持ってきてください。
１本しか持参できない場合は、18(28)～55㎜を持ってきてください。
※外付けのストロボをお持ちください。
ストロボ撮影は、撮り方により背景に人物と同じ影が出て見苦しい写真になります。天井バウンスの撮り方をマスターします。そのため、発光部が左右上下に回転するストロボを用意してください。電池の予備を準備してください。
※コンパクトフラッシュ：250～300カット程度撮影できるものを準備してください。
※カメラのバッテリー：実習ではモニターチェックが多くなります。フル充電して予備のバッテリーがあれば持参してください。

セミナー終了後、広報写真クリニックを行います。
希望される方は、ご自分が撮影した広報紙をお持ちください。